

今年、灯台150周年です

現在、全国にある灯台の始まりは、明治の初めに導入された洋式灯台にさかのぼります。

江戸末期、英・米・仏・蘭の四ヶ国が、関門海峡を舞台に長州藩と戦った下関戦争の賠償の一環として、開港した各港への灯台の設置を約束させ、1番目に建設された灯台が、神奈川県横須賀市にある観音埼灯台です。

明治元年11月1日に、この観音埼灯台の建設を着手しており、この年を基点として、平成30年は、灯台の近代化150周年を迎えます。

対馬の主な灯台

灯台150周年にあたり、対馬に設置されている主な灯台を毎月順番にご紹介します。

神埼灯台

神埼灯台は、明治27年、日清戦争開始直後、海軍省の要請に応じて建設された灯台の一つです。対馬最南端、神埼の海面上約50メートルの断崖絶壁に設置されました。

昭和50年までは、職員が灯台に滞在し、灯台のあかりを守っていました。現在は、太陽電池等の採用により、無人となっています。





LED灯器



太陽電池

神埼灯台の光の強さは、3,700カンデラあり、約22キロメートル先の海を照らしています。



船付場



旧職員宿舎跡



黄金の泉

神埼灯台は、明治27年9月5日に初点灯し、この頃は、職員が灯台に滞在して、灯台の灯を守っていました。この悪環境のなかで、職員が業務を遂行できたのは、職員の業務や生活を影で支えてきた、小使、水汲夫、用船者、用弁者と言われる人々の助力によるところが多大であったようです。

水汲夫におかれては、職員の飲用水を水桶に背負って、灯台と山中の井戸（黄金の泉）との間、約1キロメートル余の山道を毎日のように運搬していたとのこと。

この水汲夫が、仕事の合間に鮮魚運搬の仕事が成功し、また、神埼灯台の仕事に関わった人々もこの泉の水を飲み、後に出世したことからこの泉を「出世の泉」と呼ぶようになった。

※ 次回は、三島灯台を紹介します。